

が89名(11.0%)であった。

(4)「怒りを感じる」への回答

「ほとんどなかった」が149名(18.4%)、「ときどきあった」が403名(49.8%)、「しばしばあった」が206名(25.4%)、「ほとんどいつもあった」が52名(6.4%)であった。

(5)「内心腹立たしい」への回答

「ほとんどなかった」が179名(22.1%)、「ときどきあった」が392名(48.4%)、「しばしばあった」が180名(22.2%)、「ほとんどいつもあった」が59名(7.3%)であった。

(6)「イライラしている」への回答

「ほとんどなかった」が158名(19.5%)、「ときどきあった」が404名(49.9%)、「しばしばあった」が199名(24.6%)、「ほとんどいつもあった」が49名(6.0%)であった。

(7)「ひどく疲れた」への回答

「ほとんどなかった」が111名(13.7%)、「ときどきあった」が345名(42.6%)、「しばしばあった」が247名(30.5%)、「ほとんどいつもあった」が107名(13.2%)であった。

(8)「へとへとだ」への回答

「ほとんどなかった」が247名(30.5%)、「ときどきあった」が308名(38.0%)、「しばしばあった」が166名(20.5%)、「ほとんどいつもあった」が89名(11.0%)であった。

(9)「だるい」への回答

「ほとんどなかった」が225名(27.8%)、「ときどきあった」が353名(43.6%)、「しばしばあった」が160名(19.8%)、「ほとんどいつもあった」が72名(8.9%)であった。

(10)「気がはりつめている」への回答

「ほとんどなかった」が81名(10.0%)、「ときどきあった」が305名(37.7%)、「しばしばあった」が289名(35.7%)、「ほとんどいつもあった」が135名(16.7%)であった。

(11)「不安だ」への回答

「ほとんどなかった」が283名(34.9%)、「ときどきあった」が367名(45.3%)、「しばしばあった」が118名(14.6%)、「ほとんどいつもあった」が42名(5.2%)であった。

(12)「落ち着きがない」への回答

「ほとんどなかった」が361名(44.6%)、「ときどきあった」が330名(40.7%)、「しばしばあった」が92名(11.4%)、「ほとんどいつもあった」が27名(3.3%)であった。

(13)「ゆううつだ」への回答

「ほとんどなかった」が319名(39.4%)、「ときどきあった」が347名(42.8%)、「しばしばあった」が101名(12.5%)、「ほとんどいつもあった」が43名(5.3%)であった。

(14)「何をしても面倒だ」への回答

「ほとんどなかった」が393名(48.5%)、「ときどきあった」が325名(40.1%)、「しばしばあった」が69名(8.5%)、「ほとんどいつもあった」が23名(2.8%)であった。

(15)「物事に集中できない」への回答

「ほとんどなかった」が408名(50.4%)、「ときどきあった」が322名(39.8%)、「しばしばあった」が67名(8.3%)、「ほとんどいつもあった」が13名(1.6%)であった。

(16)「気分が晴れない」への回答

「ほとんどなかった」が310名(38.3%)、「ときどきあった」が350名(43.2%)、「しばしばあった」が107名(13.2%)、「ほとんどいつもあった」が43名(5.3%)であった。

(17)「仕事が手につかない」への回答

「ほとんどなかった」が549名(67.8%)、「ときどきあった」が216名(26.7%)、「しばしばあった」が36名(4.4%)、「ほとんどいつもあった」が9名(1.1%)であった。

(18)「悲しいと感じる」への回答

「ほとんどなかった」が529名(65.3%)、「ときどきあった」が207名(25.6%)、「しばしばあった」が52名(6.4%)、「ほとんどいつもあった」が22名(2.7%)であった。

(19)「めまいがする」への回答

「ほとんどなかった」が647名(79.9%)、「ときどきあった」が114名(14.1%)、「しばしばあった」が37名(4.6%)、「ほとんどいつもあった」が12名(1.5%)であった。

(20)「体のふしぶしが痛む」への回答

「ほとんどなかった」が518名(64.0%)、「ときどきあった」が200名(24.7%)、「しばしばあ

った」が67名(8.3%)、「ほとんどいつもあった」が25名(3.1%)であった。

(21) 「頭が重かったり頭痛がする」への回答

「ほとんどなかった」が494名(61.0%)、「ときどきあった」が221名(27.3%)、「しばしばあった」が76名(9.4%)、「ほとんどいつもあった」が19名(2.3%)であった。

(22) 「首筋や肩がこる」への回答

「ほとんどなかった」が221名(27.3%)、「ときどきあった」が276名(34.1%)、「しばしばあった」が177名(21.9%)、「ほとんどいつもあった」が136名(16.8%)であった。

(23) 「腰が痛い」への回答

「ほとんどなかった」が316名(39.0%)、「ときどきあった」が283名(34.9%)、「しばしばあった」が140名(17.3%)、「ほとんどいつもあった」が71名(8.8%)であった。

(24) 「目が疲れる」への回答

「ほとんどなかった」が154名(19.0%)、「ときどきあった」が303名(37.4%)、「しばしばあった」が227名(28.0%)、「ほとんどいつもあった」が126名(15.6%)であった。

(25) 「動悸や息切れがする」への回答

「ほとんどなかった」が608名(75.1%)、「ときどきあった」が145名(17.9%)、「しばしばあった」が37名(4.6%)、「ほとんどいつもあった」が20名(2.5%)であった。

(26) 「胃腸の具合が悪い」への回答

「ほとんどなかった」が452名(55.8%)、「ときどきあった」が257名(31.7%)、「しばしばあった」が69名(8.5%)、「ほとんどいつもあった」が32名(4.0%)であった。

(27) 「食欲がない」への回答

「ほとんどなかった」が618名(76.3%)、「ときどきあった」が151名(18.6%)、「しばしばあった」が33名(4.1%)、「ほとんどいつもあった」が8名(1.0%)であった。

(28) 「便秘や下痢をする」への回答

「ほとんどなかった」が465名(57.4%)、「ときどきあった」が237名(29.3%)、「しばしばあった」が78名(9.6%)、「ほとんどいつもあった」が30名(3.7%)であった。

(29) 「よく眠れない」への回答

「ほとんどなかった」が521名(64.3%)、「ときどきあった」が214名(26.4%)、「しばしばあった」が52名(6.4%)、「ほとんどいつもあった」が23名(2.8%)であった。

17) 職業性ストレス簡易調査票<sup>3)</sup>における「あなたの周りの方々について」の項目でみた割合

(1) 「次の人たちにはどのくらい気軽に話ができますか」への回答

a. 上司

「非常に」が182名(22.5%)、「かなり」が290名(35.8%)、「多少」が272名(33.6%)、「全くない」が66名(8.1%)であった。

b. 職場の同僚

「非常に」が305名(37.7%)、「かなり」が342名(42.2%)、「多少」が148名(18.3%)、「全くない」が15名(1.9%)であった。

c. 配偶者、家族、友人等

「非常に」が456名(56.3%)、「かなり」が273名(33.7%)、「多少」が70名(8.6%)、「全くない」が11名(1.4%)であった。

(2) 「あなたが困った時、次の人たちはどのくらい頼りになりますか」への回答

a. 上司

「非常に」が195名(24.1%)、「かなり」が256名(31.6%)、「多少」が274名(33.8%)、「全くない」が85名(10.5%)であった。

b. 職場の同僚

「非常に」が174名(21.5%)、「かなり」が325名(40.1%)、「多少」が274名(33.8%)、「全くない」が37名(4.6%)であった。

c. 配偶者、家族、友人等

「非常に」が342名(42.2%)、「かなり」が282名(34.8%)、「多少」が161名(19.9%)、「全くない」が25名(3.1%)であった。

(3) 「あなたが個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか」への回答

a. 上司

「非常に」が141名(17.4%)、「かなり」が263名(32.5%)、「多少」が299名(36.9%)、「全くない」が107名(13.2%)であった。



b. 職場の同僚

「非常に」が145名(17.9%)、「かなり」が304名(37.5%)、「多少」が304名(37.5%)、「全くない」が57名(7.0%)であった。

c. 配偶者、家族、友人等

「非常に」が396名(48.9%)、「かなり」が280名(34.6%)、「多少」が115名(14.2%)、「全くない」が19名(2.3%)であった。

18) 職業性ストレス簡易調査票<sup>3)</sup>における「満足度について」の項目でみた割合

(1) 「仕事に満足だ」への回答

「満足」が190名(23.5%)、「まあ満足」が444名(54.8%)、「やや不満足」が138名(17.0%)、「不満足」が38名(4.7%)であった。

(2) 「家庭生活に満足だ」への回答

「満足」が305名(37.7%)、「まあ満足」が394名(48.6%)、「やや不満足」が76名(9.4%)、「不満足」が35名(4.3%)であった。

19) 抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>の項目でみた割合

(1) 「普段ではなんでもないことがわずらわしかった」への回答

「ない」が426名(52.6%)、「週に1~2日」が334名(41.2%)、「週に3~4日」が31名(3.8%)、「週に5日以上」19名(2.3%)であった。

(2) 「食べたくなかった・食欲がなかった」への回答

「ない」が651名(80.4%)、「週に1~2日」が139名(17.2%)、「週に3~4日」が15名(1.9%)、「週に5日以上」が5名(0.6%)であった。

(3) 「たとえ家族や友人が助けてくれたとしても、ゆううつな気分は晴れないと感じた」への回答

「ない」が569名(70.2%)、「週に1~2日」が197名(24.3%)、「週に3~4日」が23名(2.8%)、「週に5日以上」が21名(2.6%)であった。

(4) 「自分は、他の人と同じくらいに価値があると感じた」への回答

「ない」が250名(30.9%)、「週に1~2日」が232名(28.6%)、「週に3~4日」が161名(19.9%)、「週に5日以上」が167名(20.6%)であった。

(5) 「ものごと集中できなかった」への回答

「ない」が464名(57.3%)、「週に1~2日」が301名(37.2%)、「週に3~4日」が32名(4.0%)、「週に5日以上」が13名(1.6%)であった。

(6) 「気分が落ち込んでいると感じた」への回答

「ない」が376名(46.4%)、「週に1~2日」が348名(43.0%)、「週に3~4日」が59名(7.3%)、「週に5日以上」が27名(3.3%)であった。

(7) 「やることすべてに骨が折れると感じた」への回答

「ない」が464名(57.3%)、「週に1~2日」が273名(33.7%)、「週に3~4日」が52名(6.4%)、「週に5日以上」が21名(2.6%)であった。

(8) 「将来に希望があると感じた」への回答

「ない」が259名(32.0%)、「週に1~2日」が307名(37.9%)、「週に3~4日」が140名(17.3%)、「週に5日以上」が104名(12.8%)であった。

(9) 「これまでの人生は失敗だったと感じた」への回答

「ない」が592名(73.1%)、「週に1~2日」が170名(21.0%)、「週に3~4日」が29名(3.6%)、「週に5日以上」が19名(2.3%)であった。

(10) 「何かにびくびくすることがあった」への回答

「ない」が537名(66.3%)、「週に1~2日」が214名(26.4%)、「週に3~4日」が34名(4.2%)、「週に5日以上」が25名(3.1%)であった。

(11) 「落ちつかず、眠れなかった」への回答

「ない」が598名(73.8%)、「週に1~2日」が175名(21.6%)、「週に3~4日」が21名(2.6%)、「週に5日以上」が16名(2.0%)であった。

(12) 「幸せな気分だった」への回答

「ない」が152名(18.8%)、「週に1~2日」が363名(44.8%)、「週に3~4日」が188名(23.2%)、「週に5日以上」が107名(13.2%)であった。

(13) 「普段より口数が少なかった」への回答

「ない」が423名(52.2%)、「週に1~2日」が327名(40.4%)、「週に3~4日」が46名(5.7%)、「週に5日以上」が14名(1.7%)であった。

(14) 「ひとりぼっちだと感じた」への回答

「ない」が573名(70.7%)、「週に1~2日」が182名(22.5%)、「週に3~4日」が32名(4.0%)、

「週に5日以上」が23名(2.8%)であった。

(15)「人々がよそよそしいと感じた」への回答  
「ない」が554名(68.4%)、「週に1~2日」が208名(25.7%)、「週に3~4日」が31名(3.8%)、「週に5日以上」が17名(2.1%)であった。

(16)「人生を楽しんだ」への回答  
「ない」が207名(25.6%)、「週に1~2日」が339名(41.9%)、「週に3~4日」が155名(19.1%)、「週に5日以上」が109名(13.5%)であった。

(17)「涙ぐむことがあった」への回答  
「ない」が614名(75.8%)、「週に1~2日」が178名(22.0%)、「週に3~4日」が14名(1.7%)、「週に5日以上」が4名(0.5%)であった。

(18)「悲しい気分だった」への回答  
「ない」が544名(67.2%)、「週に1~2日」が226名(27.9%)、「週に3~4日」が24名(3.0%)、「週に5日以上」が16名(2.0%)であった。

(19)「まわりの人が自分を嫌っていると感じた」への回答  
「ない」が600名(74.1%)、「週に1~2日」が175名(21.6%)、「週に3~4日」が24名(3.0%)、「週に5日以上」が11名(1.4%)であった。

(20)「ものごとくに手がつかないと感じた」への回答  
「ない」が592名(73.1%)、「週に1~2日」が190名(23.5%)、「週に3~4日」が18名(2.2%)、「週に5日以上」が10名(1.2%)であった。

20) 指導歯科医として「ストレスを感じる事」についての自由記載について

指導歯科医として「ストレスを感じる事」についての自由記載の回答数は、391件であった。自由記載の内容は、表2に示す。

## 2. アンケート分析結果

1) 職業性ストレス簡易調査票<sup>3)</sup>の分析による性別でみた結果

### (1) 男性

仕事の量的負担の平均は9.8、仕事のコントロールの平均は7.7、上司の支援の平均は8.0、同僚の支援の平均は8.6、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは110、職場の

支援リスクは90、総合した健康リスクは99であった。

### (2) 女性

仕事の量的負担の平均は9.8、仕事のコントロールの平均は7.3、上司の支援の平均は7.8、同僚の支援の平均は8.6、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは114、職場の支援リスクは92、総合した健康リスクは104であった。

### (3) 男女合計

仕事の量的負担の平均は9.8、仕事のコントロールの平均は7.7、上司の支援の平均は8.0、同僚の支援の平均は8.6、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは111、職場の支援リスクは91、総合した健康リスクは101であった。

2) 職業性ストレス簡易調査票<sup>3)</sup>の分析による年代別でみた結果

### (1) 20歳代

仕事の量的負担の平均は8.5、仕事のコントロールの平均は6.5、上司の支援の平均は8.0、同僚の支援の平均は10.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは111、職場の支援リスクは79、総合した健康リスクは87であった。

### (2) 30歳代

仕事の量的負担の平均は9.7、仕事のコントロールの平均は7.3、上司の支援の平均は8.2、同僚の支援の平均は8.9、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは113、職場の支援リスクは87、総合した健康リスクは98であった。

### (3) 40歳代

仕事の量的負担の平均は9.9、仕事のコントロールの平均は7.4、上司の支援の平均は8.0、同僚の支援の平均は8.6、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは114、職場の支援リスクは91、総合した健康リスクは103であった。

### (4) 50歳代

仕事の量的負担の平均は10.1、仕事のコントロ



ールの平均は8.0、上司の支援の平均は7.7、同僚の支援の平均は8.3、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは110、職場の支援リスクは96、総合した健康リスクは105であった。

(5) 60歳代

仕事の量的負担の平均は9.0、仕事のコントロールの平均は9.2、上司の支援の平均は8.0、同僚の支援の平均は8.8、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは91、職場の支援リスクは88、総合した健康リスクは80であった。

(6) 70歳代

仕事の量的負担の平均は11.0、仕事のコントロールの平均は9.0、上司の支援の平均は5.0、同僚の支援の平均は7.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは108、職場の支援リスクは141、総合した健康リスクは152であった。

3) 職業性ストレス簡易調査票<sup>3)</sup>の分析による臨床経験年数別でみた結果

(1) 5年

仕事の量的負担の平均は9.0、仕事のコントロールの平均は7.6、上司の支援の平均は10.4、同僚の支援の平均は10.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは105、職場の支援リスクは60、総合した健康リスクは63であった。

(2) 6~10年

仕事の量的負担の平均は9.6、仕事のコントロールの平均は7.2、上司の支援の平均は8.1、同僚の支援の平均は8.9、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは113、職場の支援リスクは87、総合した健康リスクは98であった。

(3) 11~15年

仕事の量的負担の平均は9.8、仕事のコントロールの平均は7.4、上司の支援の平均は8.1、同僚の支援の平均は8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは113、職場の支援リスクは89、総合した健康リスクは100であ

った。

(4) 16~20年

仕事の量的負担の平均は9.8、仕事のコントロールの平均は7.5、上司の支援の平均は8.4、同僚の支援の平均は8.8、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは112、職場の支援リスクは85、総合した健康リスクは95であった。

(5) 21~25年

仕事の量的負担の平均は10.2、仕事のコントロールの平均は7.6、上司の支援の平均は7.4、同僚の支援の平均は8.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは115、職場の支援リスクは100、総合した健康リスクは115であった。

(6) 26~30年

仕事の量的負担の平均は10.0、仕事のコントロールの平均は7.9、上司の支援の平均は7.8、同僚の支援の平均は8.5、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは110、職場の支援リスクは93、総合した健康リスクは102であった。

(7) 31年以上

仕事の量的負担の平均は9.6、仕事のコントロールの平均は8.9、上司の支援の平均は8.0、同僚の支援の平均は8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは98、職場の支援リスクは89、総合した健康リスクは87であった。

4) 職業性ストレス簡易調査票<sup>3)</sup>の分析による所属する臨床研修施設別でみた結果

(1) 歯科大学病院・歯学部附属病院

仕事の量的負担の平均は9.8、仕事のコントロールの平均は7.2、上司の支援の平均は7.8、同僚の支援の平均は8.5、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは115、職場の支援リスクは93、総合した健康リスクは106であった。

(2) 大学病院口腔外科

仕事の量的負担の平均は10.1、仕事のコントロールの平均は7.4、上司の支援の平均は7.8、同僚

の支援の平均は 8.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 116、職場の支援リスクは 96、総合した健康リスクは 111 であった。

### (3) 一般病院口腔外科

仕事の量的負担の平均は 10.0、仕事のコントロールの平均は 8.2、上司の支援の平均は 7.8、同僚の支援の平均は 8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 107、職場の支援リスクは 92、総合した健康リスクは 98 であった。

### (4) 一般病院歯科

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 7.6、上司の支援の平均は 9.0、同僚の支援の平均は 8.6、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 111、職場の支援リスクは 82、総合した健康リスクは 91 であった。

### (5) 診療所・歯科医院

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 8.8、上司の支援の平均は 8.5、同僚の支援の平均は 9.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 100、職場の支援リスクは 83、総合した健康リスクは 83 であった。

## 5) 職業性ストレス簡易調査票<sup>3)</sup>の分析による単独型・管理型・協力型臨床研修施設における臨床研修施設別でみた結果

### (1) 単独型臨床研修施設

#### a. 歯科大学病院・歯学部附属病院

仕事の量的負担の平均は 9.9、仕事のコントロールの平均は 6.9、上司の支援の平均は 7.6、同僚の支援の平均は 8.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 119、職場の支援リスクは 95、総合した健康リスクは 113 であった。

#### b. 大学病院口腔外科

仕事の量的負担の平均は 10.3、仕事のコントロールの平均は 7.5、上司の支援の平均は 7.9、同僚の支援の平均は 8.3、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 116、職場の

支援リスクは 94、総合した健康リスクは 109 であった。

#### c. 一般病院口腔外科

仕事の量的負担の平均は 10.1、仕事のコントロールの平均は 8.1、上司の支援の平均は 7.8、同僚の支援の平均は 8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 108、職場の支援リスクは 91、総合した健康リスクは 98 であった。

#### d. 一般病院歯科

仕事の量的負担の平均は 10.4、仕事のコントロールの平均は 7.8、上司の支援の平均は 8.4、同僚の支援の平均は 8.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 114、職場の支援リスクは 90、総合した健康リスクは 102 であった。

#### e. 診療所・歯科医院

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 8.6、上司の支援の平均は 8.5、同僚の支援の平均は 8.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 101、職場の支援リスクは 89、総合した健康リスクは 89 であった。

## (2) 管理型臨床研修施設

#### a. 歯科大学病院・歯学部附属病院

仕事の量的負担の平均は 9.7、仕事のコントロールの平均は 7.3、上司の支援の平均は 7.8、同僚の支援の平均は 8.6、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 114、職場の支援リスクは 92、総合した健康リスクは 104 であった。

#### b. 大学病院口腔外科

仕事の量的負担の平均は 9.9、仕事のコントロールの平均は 7.0、上司の支援の平均は 7.7、同僚の支援の平均は 8.3、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 118、職場の支援リスクは 96、総合した健康リスクは 113 であった。

#### c. 一般病院口腔外科

仕事の量的負担の平均は 12.0、仕事のコントロールの平均は 8.7、上司の支援の平均は 9.0、同僚の支援の平均は 9.3、仕事のストレス判定図から



得られた量-コントロールリスクは 120、職場の支援リスクは 76、総合した健康リスクは 91 であった。

#### d. 一般病院歯科

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 7.6、上司の支援の平均は 8.8、同僚の支援の平均は 8.3、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 111、職場の支援リスクは 86、総合した健康リスクは 95 であった。

#### e. 診療所・歯科医院

仕事の量的負担の平均は 10.8、仕事のコントロールの平均は 9.0、上司の支援の平均は 9.8、同僚の支援の平均は 11.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 106、職場の支援リスクは 60、総合した健康リスクは 63 であった。

### (3) 協力型臨床研修施設

#### a. 歯科大学病院・歯学部附属病院

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 6.8、上司の支援の平均は 7.8、同僚の支援の平均は 8.5、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 119、職場の支援リスクは 93、総合した健康リスクは 110 であった。

#### b. 大学病院口腔外科

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 8.0、上司の支援の平均は 7.8、同僚の支援の平均は 8.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 107、職場の支援リスクは 96、総合した健康リスクは 102 であった。

#### c. 一般病院口腔外科

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 7.9、上司の支援の平均は 7.1、同僚の支援の平均は 8.1、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 108、職場の支援リスクは 103、総合した健康リスクは 111 であった。

#### d. 一般病院歯科

仕事の量的負担の平均は 9.6、仕事のコントロールの平均は 7.9、上司の支援の平均は 9.4、同僚

の支援の平均は 8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 107、職場の支援リスクは 78、総合した健康リスクは 83 であった。

#### e. 診療所・歯科医院

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 8.8、上司の支援の平均は 8.5、同僚の支援の平均は 9.1、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 100、職場の支援リスクは 82、総合した健康リスクは 82 であった。

### 6) 職業性ストレス簡易調査票<sup>3)</sup>の分析による職階・役職別でみた結果

(1)「歯科大学病院・歯学部附属病院」、「大学病院口腔外科」における職階別でみた結果

#### a. 教授

仕事の量的負担の平均は 10.1、仕事のコントロールの平均は 7.8、上司の支援の平均は 7.5、同僚の支援の平均は 8.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 113、職場の支援リスクは 101、総合した健康リスクは 114 であった。

#### b. 准教授

仕事の量的負担の平均は 10.2、仕事のコントロールの平均は 7.5、上司の支援の平均は 7.6、同僚の支援の平均は 8.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 116、職場の支援リスクは 97、総合した健康リスクは 112 であった。

#### c. 講師

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 7.1、上司の支援の平均は 7.7、同僚の支援の平均は 8.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 116、職場の支援リスクは 94、総合した健康リスクは 109 であった。

#### d. 助教

仕事の量的負担の平均は 9.7、仕事のコントロールの平均は 7.2、上司の支援の平均は 8.0、同僚の支援の平均は 8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 115、職場の

支援リスクは90、総合した健康リスクは103であった。

e. その他

仕事の量的負担の平均は9.5、仕事のコントロールの平均は7.4、上司の支援の平均は7.7、同僚の支援の平均は8.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは111、職場の支援リスクは95、総合した健康リスクは105であった。

(2)「歯科大学病院・歯学部附属病院」、「大学病院口腔外科」における研修の役職別でみた結果

a. プログラム責任者

仕事の量的負担の平均は10.4、仕事のコントロールの平均は8.3、上司の支援の平均は7.6、同僚の支援の平均は8.5、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは109、職場の支援リスクは95、総合した健康リスクは103であった。

b. 副プログラム責任者

仕事の量的負担の平均は10.1、仕事のコントロールの平均は7.3、上司の支援の平均は8.2、同僚の支援の平均は8.8、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは117、職場の支援リスクは87、総合した健康リスクは101であった。

c. 研修実地責任者

仕事の量的負担の平均は10.3、仕事のコントロールの平均は7.9、上司の支援の平均は7.9、同僚の支援の平均は8.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは113、職場の支援リスクは93、総合した健康リスクは105であった。

d. 研修担当者

仕事の量的負担の平均は9.7、仕事のコントロールの平均は7.1、上司の支援の平均は7.7、同僚の支援の平均は8.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは116、職場の支援リスクは95、総合した健康リスクは110であった。

e. その他

仕事の量的負担の平均は9.4、仕事のコントロールの平均は7.1、上司の支援の平均は7.8、同僚

の支援の平均は8.6、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは113、職場の支援リスクは92、総合した健康リスクは103であった。

(3)「一般病院口腔外科」における職階別でみた結果

a. 歯科部長

仕事の量的負担の平均は10.0、仕事のコントロールの平均は8.4、上司の支援の平均は7.8、同僚の支援の平均は8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは105、職場の支援リスクは91、総合した健康リスクは95であった。

b. 歯科医長

仕事の量的負担の平均は10.3、仕事のコントロールの平均は7.9、上司の支援の平均は8.2、同僚の支援の平均は8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは112、職場の支援リスクは88、総合した健康リスクは98であった。

c. 研修実地担当者

仕事の量的負担の平均は9.5、仕事のコントロールの平均は6.0、上司の支援の平均は8.5、同僚の支援の平均は10.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは125、職場の支援リスクは75、総合した健康リスクは93であった。

d. その他

仕事の量的負担の平均は10.5、仕事のコントロールの平均は6.0、上司の支援の平均は4.5、同僚の支援の平均は7.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは135、職場の支援リスクは148、総合した健康リスクは199であった。

(4)「一般病院歯科」における職階別でみた結果

a. 歯科部長

仕事の量的負担の平均は10.1、仕事のコントロールの平均は7.8、上司の支援の平均は8.9、同僚の支援の平均は8.6、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは112、職場の支援リスクは83、総合した健康リスクは92であった。



b. 歯科医長

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 7.0、上司の支援の平均は 9.2、同僚の支援の平均は 9.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 117、職場の支援リスクは 77、総合した健康リスクは 90 であった。

c. 研修実地担当者

仕事の量的負担の平均は 9.3、仕事のコントロールの平均は 7.8、上司の支援の平均は 9.0、同僚の支援の平均は 8.3、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 105、職場の支援リスクは 84、総合した健康リスクは 88 であった。

(5)「診療所・歯科医院」における職階別でみた結果

a. 理事長・院長

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 9.1、上司の支援の平均は 8.2、同僚の支援の平均は 8.8、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 98、職場の支援リスクは 86、総合した健康リスクは 84 であった。

b. 副院長

仕事の量的負担の平均は 9.7、仕事のコントロールの平均は 8.1、上司の支援の平均は 8.8、同僚の支援の平均は 9.1、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 106、職場の支援リスクは 80、総合した健康リスクは 84 であった。

c. 研修責任者

仕事の量的負担の平均は 9.3、仕事のコントロールの平均は 7.9、上司の支援の平均は 9.9、同僚の支援の平均は 10.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 105、職場の支援リスクは 65、総合した健康リスクは 68 であった。

d. 研修担当者

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 8.5、上司の支援の平均は 9.0、同僚の支援の平均は 9.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 102、職場の

支援リスクは 79、総合した健康リスクは 80 であった。

e. その他

仕事の量的負担の平均は 9.5、仕事のコントロールの平均は 7.7、上司の支援の平均は 8.5、同僚の支援の平均は 9.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 108、職場の支援リスクは 77、総合した健康リスクは 83 であった。

7) 職業性ストレス簡易調査票<sup>3)</sup>の分析による平成 18 年度以降指導歯科医として直接的に指導を行った研修歯科医総数でみた結果

(1) 0 名

仕事の量的負担の平均は 9.4、仕事のコントロールの平均は 7.8、上司の支援の平均は 7.7、同僚の支援の平均は 8.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 106、職場の支援リスクは 97、総合した健康リスクは 102 であった。

(2) 1 名

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 7.9、上司の支援の平均は 7.7、同僚の支援の平均は 8.3、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 108、職場の支援リスクは 96、総合した健康リスクは 103 であった。

(3) 2 名

仕事の量的負担の平均は 9.5、仕事のコントロールの平均は 7.7、上司の支援の平均は 7.7、同僚の支援の平均は 8.3、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 107、職場の支援リスクは 96、総合した健康リスクは 102 であった。

(4) 3 名

仕事の量的負担の平均は 10.0、仕事のコントロールの平均は 8.2、上司の支援の平均は 7.8、同僚の支援の平均は 8.6、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 107、職場の支援リスクは 92、総合した健康リスクは 98 であった。

(5) 4 名

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 8.0、上司の支援の平均は 8.1、同僚の支援の平均は 8.6、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 107、職場の支援リスクは 89、総合した健康リスクは 95 であった。

(6) 5名

仕事の量的負担の平均は 10.2、仕事のコントロールの平均は 7.8、上司の支援の平均は 8.2、同僚の支援の平均は 9.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 113、職場の支援リスクは 85、総合した健康リスクは 96 であった。

(7) 6名

仕事の量的負担の平均は 9.6、仕事のコントロールの平均は 7.9、上司の支援の平均は 7.9、同僚の支援の平均は 8.9、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 107、職場の支援リスクは 88、総合した健康リスクは 94 であった。

(8) 7名

仕事の量的負担の平均は 10.4、仕事のコントロールの平均は 8.1、上司の支援の平均は 8.5、同僚の支援の平均は 8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 112、職場の支援リスクは 85、総合した健康リスクは 95 であった。

(9) 8名

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 8.4、上司の支援の平均は 8.5、同僚の支援の平均は 8.9、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 103、職場の支援リスクは 83、総合した健康リスクは 85 であった。

(10) 9名

仕事の量的負担の平均は 10.5、仕事のコントロールの平均は 7.8、上司の支援の平均は 8.3、同僚の支援の平均は 8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 116、職場の支援リスクは 87、総合した健康リスクは 100 であった。

(11) 10名

仕事の量的負担の平均は 9.7、仕事のコントロールの平均は 8.0、上司の支援の平均は 8.5、同僚の支援の平均は 9.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 107、職場の支援リスクは 82、総合した健康リスクは 87 であった。

(12) 11~15名

仕事の量的負担の平均は 9.7、仕事のコントロールの平均は 7.6、上司の支援の平均は 8.0、同僚の支援の平均は 8.5、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 111、職場の支援リスクは 92、総合した健康リスクは 102 であった。

(13) 16~20名

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 7.3、上司の支援の平均は 7.6、同僚の支援の平均は 8.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 115、職場の支援リスクは 98、総合した健康リスクは 112 であった。

(14) 21~25名

仕事の量的負担の平均は 10.1、仕事のコントロールの平均は 6.8、上司の支援の平均は 7.3、同僚の支援の平均は 8.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 122、職場の支援リスクは 98、総合した健康リスクは 119 であった。

(15) 26~30名

仕事の量的負担の平均は 9.7、仕事のコントロールの平均は 7.7、上司の支援の平均は 8.8、同僚の支援の平均は 9.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 109、職場の支援リスクは 79、総合した健康リスクは 86 であった。

(16) 31名以上

仕事の量的負担の平均は 9.9、仕事のコントロールの平均は 7.0、上司の支援の平均は 7.9、同僚の支援の平均は 8.6、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 118、職場の支援リスクは 91、総合した健康リスクは 107 であった。



8) 職業性ストレス簡易調査票<sup>3)</sup>の分析による平成20年度に実際に指導を行っている研修歯科医総数でみた結果

(1) 0名

仕事の量的負担の平均は9.4、仕事のコントロールの平均は8.2、上司の支援の平均は8.0、同僚の支援の平均は8.5、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは102、職場の支援リスクは91、総合した健康リスクは92であった。

(2) 1名

仕事の量的負担の平均は9.9、仕事のコントロールの平均は7.9、上司の支援の平均は7.7、同僚の支援の平均は8.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは109、職場の支援リスクは95、総合した健康リスクは103であった。

(3) 2名

仕事の量的負担の平均は9.9、仕事のコントロールの平均は8.1、上司の支援の平均は8.3、同僚の支援の平均は9.1、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは108、職場の支援リスクは83、総合した健康リスクは89であった。

(4) 3名

仕事の量的負担の平均は9.9、仕事のコントロールの平均は8.2、上司の支援の平均は8.1、同僚の支援の平均は8.9、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは106、職場の支援リスクは87、総合した健康リスクは92であった。

(5) 4名

仕事の量的負担の平均は9.7、仕事のコントロールの平均は7.6、上司の支援の平均は8.2、同僚の支援の平均は8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは110、職場の支援リスクは87、総合した健康リスクは95であった。

(6) 5名

仕事の量的負担の平均は9.5、仕事のコントロールの平均は6.9、上司の支援の平均は7.2、同僚の支援の平均は7.9、仕事のストレス判定図から

得られた量-コントロールリスクは116、職場の支援リスクは105、総合した健康リスクは121であった。

(7) 6名

仕事の量的負担の平均は9.7、仕事のコントロールの平均は6.8、上司の支援の平均は7.3、同僚の支援の平均は7.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは119、職場の支援リスクは108、総合した健康リスクは128であった。

(8) 7名

仕事の量的負担の平均は10.0、仕事のコントロールの平均は7.0、上司の支援の平均は8.4、同僚の支援の平均は8.9、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは119、職場の支援リスクは85、総合した健康リスクは101であった。

(9) 8名

仕事の量的負担の平均は9.8、仕事のコントロールの平均は7.9、上司の支援の平均は9.4、同僚の支援の平均は9.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは108、職場の支援リスクは76、総合した健康リスクは82であった。

(10) 9名

仕事の量的負担の平均は10.1、仕事のコントロールの平均は6.0、上司の支援の平均は7.4、同僚の支援の平均は7.3、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは131、職場の支援リスクは109、総合した健康リスクは142であった。

(11) 10名

仕事の量的負担の平均は9.8、仕事のコントロールの平均は7.4、上司の支援の平均は8.6、同僚の支援の平均は8.3、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは113、職場の支援リスクは87、総合した健康リスクは98であった。

(12) 11~15名

仕事の量的負担の平均は9.6、仕事のコントロールの平均は7.2、上司の支援の平均は7.8、同僚の支援の平均は9.0、仕事のストレス判定図から

得られた量-コントロールリスクは 114、職場の支援リスクは 89、総合した健康リスクは 101 であった。

(13) 16~20 名

仕事の量的負担の平均は 10.5、仕事のコントロールの平均は 7.4、上司の支援の平均は 7.2、同僚の支援の平均は 7.8、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 119、職場の支援リスクは 105、総合した健康リスクは 124 であった。

(14) 21~25 名

仕事の量的負担の平均は 9.6、仕事のコントロールの平均は 7.1、上司の支援の平均は 8.2、同僚の支援の平均は 9.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 114、職場の支援リスクは 84、総合した健康リスクは 95 であった。

(15) 26~30 名

仕事の量的負担の平均は 9.8、仕事のコントロールの平均は 8.2、上司の支援の平均は 8.0、同僚の支援の平均は 9.6、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 105、職場の支援リスクは 82、総合した健康リスクは 86 であった。

(16) 31 名以上

仕事の量的負担の平均は 10.0、仕事のコントロールの平均は 6.9、上司の支援の平均は 7.8、同僚の支援の平均は 8.5、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 120、職場の支援リスクは 93、総合した健康リスクは 111 であった。

9) 仕事量からみた平成 20 年度における研修歯科医の指導に費やす時間でみた結果

(1) 1~10%

仕事の量的負担の平均は 9.6、仕事のコントロールの平均は 7.6、上司の支援の平均は 7.6、同僚の支援の平均は 8.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 110、職場の支援リスクは 96、総合した健康リスクは 105 であった。

(2) 11~20%

仕事の量的負担の平均は 9.6、仕事のコントロールの平均は 7.8、上司の支援の平均は 7.6、同僚の支援の平均は 8.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 108、職場の支援リスクは 95、総合した健康リスクは 102 であった。

(3) 21~30%

仕事の量的負担の平均は 9.9、仕事のコントロールの平均は 7.8、上司の支援の平均は 8.2、同僚の支援の平均は 8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 110、職場の支援リスクは 88、総合した健康リスクは 96 であった。

(4) 31~40%

仕事の量的負担の平均は 10.0、仕事のコントロールの平均は 7.5、上司の支援の平均は 8.3、同僚の支援の平均は 8.9、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 114、職場の支援リスクは 85、総合した健康リスクは 96 であった。

(5) 41~50%

仕事の量的負担の平均は 9.7、仕事のコントロールの平均は 7.8、上司の支援の平均は 8.5、同僚の支援の平均は 9.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 108、職場の支援リスクは 82、総合した健康リスクは 88 であった。

(6) 51~60%

仕事の量的負担の平均は 10.5、仕事のコントロールの平均は 7.7、上司の支援の平均は 9.2、同僚の支援の平均は 9.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 116、職場の支援リスクは 77、総合した健康リスクは 89 であった。

(7) 61~70%

仕事の量的負担の平均は 9.6、仕事のコントロールの平均は 7.1、上司の支援の平均は 8.7、同僚の支援の平均は 8.5、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 115、職場の支援リスクは 85、総合した健康リスクは 97 であった。

(8) 71~80%



仕事の量的負担の平均は10.5、仕事のコントロールの平均は7.1、上司の支援の平均は8.5、同僚の支援の平均は8.9、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは123、職場の支援リスクは84、総合した健康リスクは103であった。

(9) 81~90%

仕事の量的負担の平均は11.0、仕事のコントロールの平均は6.9、上司の支援の平均は8.2、同僚の支援の平均は9.5、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは130、職場の支援リスクは82、総合した健康リスクは106であった。

(10) 91~100%

仕事の量的負担の平均は10.8、仕事のコントロールの平均は7.3、上司の支援の平均は6.8、同僚の支援の平均は8.3、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは123、職場の支援リスクは105、総合した健康リスクは129であった。

10) 抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> の分析による性別でみた結果

(1) 男性

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が60点であり、平均点が13.6点 (標準偏差8.5点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、679名中226名であった。

(2) 女性

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が1点、最高点が37点であり、平均点が14.4点 (標準偏差8.1点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、131名中53名であった。

(3) 男女合計

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が60点であり、平均点が13.7点 (標準偏差8.4点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、810名中279名であった。

11) 抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> の分析による年代別でみた結果

(1) 20歳代

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が6点、最高点が23点であり、平均点が14.5点 (標準偏差12.0点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、2名中1名であった。

(2) 30歳代

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が60点であり、平均点が14.3点 (標準偏差8.1点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、245名中94名であった。

(3) 40歳代

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が53点であり、平均点が13.4点 (標準偏差8.6点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、303名中101名であった。

(4) 50歳代

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が51点であり、平均点が13.8点 (標準偏差8.4点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、211名中68名であった。

(5) 60歳代

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が44点であり、平均点が12.9点 (標準偏差8.9点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、48名中15名であった。

(6) 70歳代

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の点数は6点であった。

12) 抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> の分析による臨床経験年数別でみた結果

(1) 5年

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が6点、最高点が13点であり、平均点が8.6点 (標準偏差3.0点) であった。ま

た、Cut-off point (区分点) の16以上の点数の指導歯科医は、5名中0名であった。

(2) 6~10年

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が60点であり、平均点が15.2点 (標準偏差9.2点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16以上の点数の指導歯科医は、144名中63名であった。

(3) 11~15年

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が1点、最高点が43点であり、平均点が13.7点 (標準偏差6.8点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16以上の点数の指導歯科医は、149名中57名であった。

(4) 16~20年

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が41点であり、平均点が12.1点 (標準偏差7.7点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16以上の点数の指導歯科医は、145名中40名であった。

(5) 21~25年

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が53点であり、平均点が14.7点 (標準偏差9.7点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16以上の点数の指導歯科医は、168名中61名であった。

(6) 26~30年

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が1点、最高点が51点であり、平均点が13.3点 (標準偏差8.1点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16以上の点数の指導歯科医は、110名中33名であった。

(7) 31年以上

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が44点であり、平均点が12.9点 (標準偏差8.3点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16以上の点数の指導歯科医は、89名中25名であった。

13) 抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> の分析による所属する臨床研修施設別でみた結果

(1) 歯科大学病院・歯学部附属病院

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が60点であり、平均点が14.7点 (標準偏差8.4点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16以上の点数の指導歯科医は、454名中180名であった。

(2) 大学病院口腔外科

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が42点であり、平均点が13.1点 (標準偏差7.6点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16以上の点数の指導歯科医は、100名中33名であった。

(3) 一般病院口腔外科

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が1点、最高点が47点であり、平均点が13.2点 (標準偏差8.5点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16以上の点数の指導歯科医は、68名中18名であった。

(4) 一般病院歯科

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が4点、最高点が39点であり、平均点が16.3点 (標準偏差10.5点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16以上の点数の指導歯科医は、20名中7名であった。

(5) 診療所・歯科医院

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が38点であり、平均点が11.4点 (標準偏差8.3点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16以上の点数の指導歯科医は、168名中41名であった。

14) 抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> の分析による単独型・管理型・協力型臨床研修施設における臨床研修施設別でみた結果

(1) 単独型臨床研修施設

a. 歯科大学病院・歯学部附属病院

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が60点であり、平均点が15.2点 (標準偏差9.2点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16以上の点数の指導歯科医は、210名中86名であった。

b. 大学病院口腔外科

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、



指導歯科医の最低点が0点、最高点が42点であり、平均点が12.9点(標準偏差7.7点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、74名中24名であった。

c. 一般病院口腔外科

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が47点であり、平均点が13.3点(標準偏差8.8点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、59名中17名であった。

d. 一般病院歯科

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が24点であり、平均点が13.4点(標準偏差6.8点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、5名中1名であった。

e. 診療所・歯科医院

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が30点であり、平均点が11.5点(標準偏差9.4点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、13名中5名であった。

(2) 管理型臨床研修施設

a. 歯科大学病院・歯学部附属病院

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が44点であり、平均点が14.5点(標準偏差7.7点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、353名中142名であった。

b. 大学病院口腔外科

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が30点であり、平均点が12.6点(標準偏差7.4点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、36名中9名であった。

c. 一般病院口腔外科

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が12点、最高点が29点であり、平均点が18.3点(標準偏差9.3点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、3名中1名であった。

d. 一般病院歯科

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が5点、最高点が36点であり、平均点が18.7点(標準偏差11.0点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、10名中5名であった。

e. 診療所・歯科医院

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が29点であり、平均点が5.3点(標準偏差10.1点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、8名中1名であった。

(3) 協力型臨床研修施設

a. 歯科大学病院・歯学部附属病院

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が1点、最高点が53点であり、平均点が15.8点(標準偏差11.1点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、29名中12名であった。

b. 大学病院口腔外科

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が3点、最高点が28点であり、平均点が17.4点(標準偏差10.1点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、5名中3名であった。

c. 一般病院口腔外科

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が5点、最高点が24点であり、平均点が13.0点(標準偏差5.8点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、14名中4名であった。

d. 一般病院歯科

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が4点、最高点が39点であり、平均点が15.1点(標準偏差11.7点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、7名中2名であった。

e. 診療所・歯科医院

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が38点であり、平均点が11.4点(標準偏差8.4点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、161名中39名であった。

15) 抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> の分析による職階・役職別でみた結果

(1) 「歯科大学病院・歯学部附属病院」、「大学病院口腔外科」における職階別でみた結果

a. 教授

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が53点であり、平均点が14.7点 (標準偏差9.5点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、51名中16名であった。

b. 准教授

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が51点であり、平均点が14.4点 (標準偏差10.0点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、84名中30名であった。

c. 講師

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が42点であり、平均点が14.5点 (標準偏差7.5点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、162名中60名であった。

d. 助教

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が35点であり、平均点が14.1点 (標準偏差7.1点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、234名中95名であった。

e. その他

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が1点、最高点が60点であり、平均点が17.2点 (標準偏差13.3点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、23名中12名であった。

(2) 「歯科大学病院・歯学部附属病院」、「大学病院口腔外科」における研修の役職別でみた結果

a. プログラム責任者

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が44点であり、平均点が14.9点 (標準偏差8.6点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数

の指導歯科医は、38名中16名であった。

b. 副プログラム責任者

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が1点、最高点が53点であり、平均点が14.3点 (標準偏差8.2点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、89名中34名であった。

c. 研修実地責任者

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が33点であり、平均点が12.8点 (標準偏差7.6点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、47名中12名であった。

d. 研修担当者

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が60点であり、平均点が14.6点 (標準偏差8.4点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、320名中122名であった。

e. その他

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が38点であり、平均点が14.6点 (標準偏差8.0点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、60名中29名であった。

(3) 「一般病院口腔外科」における職階別でみた結果

a. 歯科部長

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が1点、最高点が47点であり、平均点が12.8点 (標準偏差7.8点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、52名中12名であった。

b. 歯科医長

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が1点、最高点が47点であり、平均点が13.9点 (標準偏差12.3点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、12名中4名であった。

c. 研修実地担当者

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) <sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が9点、最高点が14点であり、



平均点が11.5点(標準偏差3.5点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、2名中0名であった。

d. その他

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が17点、最高点が24点であり、平均点が20.5点(標準偏差4.9点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、2名中2名であった。

(4)「一般病院歯科」における職階別でみた結果

a. 歯科部長

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が8点、最高点が39点であり、平均点が18.4点(標準偏差11.4点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、9名中3名であった。

b. 歯科医長

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が4点、最高点が28点であり、平均点が9.8点(標準偏差10.2点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、5名中1名であった。

c. 研修実地担当者

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が8点、最高点が30点であり、平均点が18.5点(標準偏差8.7点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、6名中3名であった。

(5)「診療所・歯科医院」における職階別でみた結果

a. 理事長・院長

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が38点であり、平均点が11.2点(標準偏差7.8点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、108名中23名であった。

b. 副院長

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が30点であり、平均点が14.0点(標準偏差8.2点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、20名中8名であった。

c. 研修責任者

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が2点、最高点が31点であり、平均点が13.2点(標準偏差10.8点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、9名中3名であった。

d. 研修担当者

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が22点であり、平均点が8.4点(標準偏差6.8点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、25名中4名であった。

e. その他

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が1点、最高点が36点であり、平均点が15.5点(標準偏差14.7点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、6名中3名であった。

16)抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>の分析による平成18年度以降指導歯科医として直接的に指導を行った研修歯科医総数でみた結果

(1)0名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が60点であり、平均点が14.4点(標準偏差10.5点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、40名中15名であった。

(2)1名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が2点、最高点が33点であり、平均点が12.9点(標準偏差6.8点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、50名中14名であった。

(3)2名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が38点であり、平均点が14.5点(標準偏差8.0点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、51名中20名であった。

(4)3名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、

指導歯科医の最低点が1点、最高点が47点であり、平均点が13.4点(標準偏差8.6点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、85名中27名であった。

(5) 4名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が1点、最高点が47点であり、平均点が14.0点(標準偏差9.4点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、55名中23名であった。

(6) 5名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が2点、最高点が42点であり、平均点が15.4点(標準偏差9.1点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、49名中20名であった。

(7) 6名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が2点、最高点が36点であり、平均点が13.9点(標準偏差7.9点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、49名中15名であった。

(8) 7名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が24点であり、平均点が9.6点(標準偏差5.7点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、24名中2名であった。

(9) 8名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が35点であり、平均点が13.0点(標準偏差7.9点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、25名中7名であった。

(10) 9名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が31点であり、平均点が12.0点(標準偏差9.5点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、23名中7名であった。

(11) 10名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、

指導歯科医の最低点が0点、最高点が43点であり、平均点が12.8点(標準偏差9.7点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、35名中10名であった。

(12) 11~15名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が51点であり、平均点が13.3点(標準偏差8.8点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、82名中29名であった。

(13) 16~20名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が2点、最高点が44点であり、平均点が15.2点(標準偏差8.8点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、34名中11名であった。

(14) 21~25名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が2点、最高点が35点であり、平均点が13.2点(標準偏差7.6点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、24名中9名であった。

(15) 26~30名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が1点、最高点が25点であり、平均点が12.6点(標準偏差6.5点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、20名中6名であった。

(16) 31名以上

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が53点であり、平均点が14.4点(標準偏差8.0点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の指導歯科医は、164名中64名であった。

17) 抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>の分析による平成20年度に実際に指導を行っている研修歯科医総数でみた結果

(1) 0名

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)<sup>4)</sup>でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が60点であり、平均点が13.7点(標準偏差8.8点)であった。ま



た、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、65名中23名であった。

(2) 1名

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が47点であり、平均点が14.9点 (標準偏差8.7点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、176名中68名であった。

(3) 2名

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が35点であり、平均点が11.2点 (標準偏差6.9点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、124名中27名であった。

(4) 3名

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が41点であり、平均点が12.4点 (標準偏差7.9点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、83名中25名であった。

(5) 4名

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が44点であり、平均点が13.6点 (標準偏差10.4点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、61名中15名であった。

(6) 5名

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が2点、最高点が28点であり、平均点が13.6点 (標準偏差7.2点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、27名中10名であった。

(7) 6名

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が5点、最高点が28点であり、平均点が16.4点 (標準偏差6.5点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、21名中11名であった。

(8) 7名

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が3点、最高点が31点であり、平均点が14.4点 (標準偏差8.7点) であった。ま

た、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、20名中9名であった。

(9) 8名

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が1点、最高点が30点であり、平均点が13.4点 (標準偏差8.7点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、18名中6名であった。

(10) 9名

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が1点、最高点が53点であり、平均点が24.3点 (標準偏差16.2点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、8名中5名であった。

(11) 10名

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が3点、最高点が44点であり、平均点が15.3点 (標準偏差9.0点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、16名中6名であった。

(12) 11~15名

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が2点、最高点が35点であり、平均点が12.7点 (標準偏差7.4点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、44名中16名であった。

(13) 16~20名

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が3点、最高点が20点であり、平均点が11.9点 (標準偏差6.0点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、13名中3名であった。

(14) 21~25名

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が3点、最高点が21点であり、平均点が11.5点 (標準偏差6.3点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、11名中3名であった。

(15) 26~30名

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が6点、最高点が51点であり、平均点が18.2点 (標準偏差18.5点) であった。

また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、5名中1名であった。

(16) 31名以上

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が38点であり、平均点が14.9点 (標準偏差7.1点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、118名中51名であった。

18) 抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> の分析による仕事量からみた平成20年度における研修歯科医の指導に費やす時間でみた結果

(1) 1~10%

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が53点であり、平均点が14.0点 (標準偏差8.1点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、176名中66名であった。

(2) 11~20%

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が43点であり、平均点が13.7点 (標準偏差8.1点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、217名中71名であった。

(3) 21~30%

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が47点であり、平均点が12.9点 (標準偏差8.2点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、207名中61名であった。

(4) 31~40%

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が44点であり、平均点が13.8点 (標準偏差8.4点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、92名中37名であった。

(5) 41~50%

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が51点であり、平均点が12.1点 (標準偏差10.3点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、31名中8名であった。

(6) 51~60%

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が1点、最高点が47点であり、平均点が14.8点 (標準偏差10.8点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、25名中7名であった。

(7) 61~70%

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が0点、最高点が33点であり、平均点が15.1点 (標準偏差8.7点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、19名中8名であった。

(8) 71~80%

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が2点、最高点が31点であり、平均点が14.7点 (標準偏差7.3点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、18名中7名であった。

(9) 81~90%

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が6点、最高点が27点であり、平均点が15.6点 (標準偏差5.6点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、13名中8名であった。

(10) 91~100%

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)<sup>4)</sup> でみた結果、指導歯科医の最低点が5点、最高点が60点であり、平均点が19.3点 (標準偏差15.0点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の指導歯科医は、12名中6名であった。

## D. 考察

### 1. アンケート調査について

平成20年度に歯科医師臨床研修に携わっているすべての指導歯科医を対象として「指導歯科医のメンタルヘルスに関する調査」を実施した。アンケート調査に関しては、メンタルヘルスを扱うというデリケートな問題であるため、倫理的な面から、東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会の承認を得て施行した。さらにホームページ上にプライバシーポリシーの声明を行い、研究目的で取